

自然と集まって話をする、そんなだんらんの場



タイルを敷き詰めた特大ダイニングテーブルは、オーナーの手作り。住人たちが集まってパーティをすることも。

Share house No.5
シェアハウス

バウハウス南千住

Kitchen

テーブルと同様にタイル張りのキッチンも広々。自分の食材はそれぞれ専用かごに収納し、冷蔵庫へ。炊飯器などの調理器具は共用で。



Entrance & etc.



①絶妙な色落ち具合の赤の扉が「バウハウス南千住」の顔。②玄関を入ってすぐの場所にあるエメラルドグリーンの下駄箱風シューズ棚は、大関商品研究所スタッフの手作り。③2階に上がると、長い廊下が続きます。

新しい暮らし方 シェアハウス生活

「一軒家に住みたい」「みんなでワイワイ暮らしたい」という願いを叶えるシェアハウスにはそれ以上に+αのメリットが、そんな暮らし方の魅力に迫ってみました。

撮影協力/オシャレモシロフウサンメディアラボ

「シェアハウス」といって、単に部屋を数人で分けて暮らすだけの場所を想像しがちですが、実はここには「新しい暮らし方」が待っています。大関商品研究所・大関耕治さんがシェアハウスとして蘇らせたのは、古民家風の味わいを演出するため、扉や梁をあえてユーズド感あるものにとりかえるなど、大胆なリノベーションが行われたとか。また、海外や古道具店で買ったアンティーク家具やランプで、和空間に異国情緒

「住人たちは話さずとも、自然と自分の生活を尊重しつつも、ほかの住人との、ふれあいを大事にしている様子。たとえば、大量に作ったおかずや、実家から送られてきたお土産をおすそ分けする。それは、かつて日本で当たり前存在した、ご近所さんのつきあいそのもの。都会のひとり暮らしではなかなか味わえない、ハートフルな交流が楽しめるようです。」

ちりばめられたオリエンタル空間



やさしい色の部屋にウッド家具が見事に融合



カフェで使われていたブロックレンガと木材を活かして、レコードやCDを大量に収納できて便利です。

紙袋作家として活動中の大滝由子さんは、カメラマンの姉・央子さんと2DKのマンションをルームシェア中。それぞれが自分の部屋を持つのではなく、仕事部屋&寝室、そしてDKを二人で共用しているのが特徴です。

「フリーの仕事はオンとオフを区別しづらいもの。だから、仕事とプライベートを分けるために、仕事部屋と寝室という形にしました。気がが知れた家族なので、ケンカもなくシェア生活を楽しんでます(笑)」

DKに置いてあるソファやテーブルは以前、央子さんが経営していたカフェで使っていたものを再活用しているそう。

「もともと、処方せんの待ち合室で使われていたソファは、なんとも言えないレトロ感がツボです。カフエカーテンを流木に結びつけたり、作品の紙袋を飾ったり、かわいらしいポイントづくりも忘れません」

絶妙な色合いが魅力のウッドボックスには、小物を収納。ドライフラワーや観葉植物を添えれば、ナチュラルな雰囲気づくりに一役！



積み上げたレンガを脚にして木材をのせたテーブルは、簡単に作れるうえに機能性も◎。高さを自在に変えられる点も高ポイントです。

デスクスペースの壁は好きなものを飾る、とっておきの場所。現在は自作の小鳥マスコット&央子さんが撮影した写真を飾っています。



部屋のアクセントに最適なハート型の紙袋は、由子さんの作品。鮮やかな配色が、シンプルなお部屋を明るく変身させます。

Share House No.4
ルームシェア

手作りアイテム満載のカフェ風ナチュラル部屋

東京都 大滝由子さん(32才)・紙袋作家 & 大滝央子さん(36才)・フリーカメラマン

海外のエッセンスを加えたカラフル部屋



適度な距離感が魅力のシェアハウス生活

「パウハウス南千住」住人
石岡享子さん(30才) ●会社員

「同年代の住人が多いので、リビングでお酒を飲みながら、朝まで仕事や趣味の話に花が咲く」と語る石岡さん。「パウハウス南千住」は、シェア居住サイト「オシャレオモシロフトウサンメディア」ひつじ不動産を通じて見つけたそう。決して格安の家賃とはいえないシェアハウスに住む理由はスバリ、人とのふれあいが。「住人たちはみんな人が好き」など、価値観が似ているからなのか、自然と良い関係や距離感が保てています。

そんな彼女の部屋には、趣味の海外旅行で買った色とりどりの雑貨が飾られ、パリの子ども部屋を彷彿とさせるよう。「大学時代にアフリカを旅して以来、カラフルな色が大好きになって、購入する雑貨は色もものばかり」。みんなで過ごす時間とひとりの時間をバランスよく保っているのが、シェアハウス生活を成功させる秘訣なのかもしれません。



石岡さんの部屋はトイレつきなので、住人同士でパッキングの心配もなし。



ベッドフレームには、思い出の手紙や写真をキュートなピンチでとめて。



海外などで購入したカラフルなストールやマフラーは「見える収納」に。

ネパールで買った白いランプシェードは300円でした。サリーの生地で作った自作カーテンや、海外で集めた雑貨とも相性抜群。



Living

冬の夜は薪ストーブを囲み、お酒を酌み交わして

アンティーク家具と鮮やかカラーのクッションやアート作品の組み合わせが、多国籍な雰囲気。昔ながらのガラスの引き戸も魅力です。

DATA

家賃：52,000～82,000円
部屋数：12部屋
居住人数：男性3人、女性7人
立地：足立区・JR常磐線沿線・駅から徒歩6分
築年数：30年

建物の随所に飾られているライトたちは、オーナーがモロッコなど海外で購入したもの。カラフルな石が埋め込まれていたり、ディテールに凝っているなど、それぞれに持ち味が。幻想的な光が気持ちを癒してくれます。



ムードを盛り上げるライトたち

Terrace



中庭には水場のあるテラスが。ソファやハンモックが置かれ、リラックスモードいっぱい。夏にはみんなでバーベキューをすることも。

Washroom

各部屋に洗面台はありますが、リビングにある共用のものは有田焼風の洗面ボウル。レトロな印象です。

